

中国における環境と食の安全性意識に関する研究： 日中農業体験学習の事例から

英格

<https://hdl.handle.net/2324/1441320>

出版情報：九州大学，2013，博士（農学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏 名 : 英格

論文題目 : 中国における環境と食の安全性意識に関する研究

一日中農業体験学習の事例から

区 分 : 課程博士(甲)

論 文 内 容 の 要 旨

中国では改革開放政策により、市場経済が導入され、農村体制の改革が図られてきた。急速な経済成長に伴い、中国全土で環境問題が深刻化し、水質の悪化が進行している。しかしながら、太湖流域では経済成長や都市化の進展、生活様式の多様化により水質汚染が著しく進行している。90年代中期から、太湖ではアオコが毎年大量繁殖し、相当数の死んだ魚介類が確認されている。

特に2007年には、太湖の大規模カニ養殖場では餌の過剰投入により、湖底に大量の餌が残り、湖水の富栄養化をもたらしてきたが、工業化・都市化による水質汚染と高温多湿な天候にも影響されて、アオコが異常発生した。そのため、太湖から飲料水を取水している無錫市では、太湖の水が利用できなくなり、かねてからの水質汚染が一举に社会問題化した。このような水質汚染は、水産物の安全性にも悪影響を与えているのではないかと懸念されている。他方、水産物の養殖過程において様々な病気が頻繁に発生しているため、それへの対処として大量の薬物が使用され、水産物における残留化学物質が問題となっている。そのため、中国では水産物の安全性確保が重要な課題となっている。

中国において、安全な食物を確保するためには、生産基盤である良好な環境や水質環境が不可欠である。そのためにも、中国国民の環境や水質汚染に対する意識を把握することが非常に重要であると考えられる。

そこで、中国国民の環境や食農に対する意識を把握するため、まず、2007年にアオコの異常発生に代表される太湖の水質汚染により、カニ生産者は、カニの安全性にどう考え、どのように行動しているかについて分析を行った。その結果、生産者やその技術者は国の基準さえ守っていれば安全であると認識し、水質汚染や食の安全性に関しては余り敏感ではなかった。次に、消費者は水質汚染や上海ガニの安全性についてどの程度関心を持っているのか、また、関心を持っているとしたら、それを実体化するための手段として、上海ガニにも安全認証制度 China GAP を必要と考えているのかについて調査し、更に、China GAP に高い評価を認める人がいるならば、どのような属性の人なのかについてアンケート調査を行った。その結果、水質汚染への認知度が高く、普段の食事では「健康と安全」を重視する消費者が53%もいたにも拘わらず、カニ購入に際し最も重視することは、30%の人が「鮮度」を挙げ、「安全性」を挙げた人は13%に過ぎなかった。また、China GAP 自体に対する認知度は低いことが示された。これより、消費者は必ずしもカニの安全性を重視している訳ではなく、その意味で生産者と消費者の意識の乖離は大きいとは言えない。これより、生産者と消費者ともに水質汚染や食に対する安全性意識が低いことを分かった。これは、中国国民の環境に対する意識や環境教育レベルの低さにも一因があると考えられる。

そのため、中国国民の環境や食の安全性意識を向上するため、どのような環境教育必要されているかについて検討する必要がある。そこで、日本で一般的に行っている体験型環境教育の一環で

ある生き物調査を中国の小学校に日本の支援で実施した。その結果、生き物調査の参加した児童は、そうでない児童よりも環境への意識が深まったことが読み取れた。また、保護者では、このような取り得に子どもが参加することの有無に拘わらず、その98%が自然と触れ合う活動に、子供たちを参加させることを期待していることが分かった。

しかしながら、一度だけの活動であるため、必ずしも大きな効果があったとは言えないところもある。したがって、この様な自然と触れ合う環境教育に参加する回数が増えるならば、環境意識がさらに高くなることが期待できるであろう。

日本で行っている循環授業を含めた農業体験学習が児童にどのような影響を与えるかについて分析を行った。その結果、農業体験学習により、「自然環境や液肥に対する意識」の向上に確実に影響があることを明らかにした。うえ、農業体験学習は、都市部の児童のみならず農村部の児童でも、農業に対する興味や関心を向上させ、自然環境や液肥を大切にすることを醸成させることが確認できた。農業や食べ物づくりを実際に体験することは、食物を作る行為の尊さや大変さを知ることができ、農業離れになっている現在社会にとって、その意義はさらに重要になってきたと言える。

以上を踏まえ、有機性廃棄物による環境負荷の低減や水田における生物多様性の向上などによる環境改善に向け、中国にとっては、循環授業を含む農業体験学習に、小学校から取り組むことが、有用であると言える。